



支部だより No.145

日本山岳会京都・滋賀支部

2021年12月15日

新年の山々へ

支部長 松下征文

新型コロナウイルス感染者数に翻弄されてきましたが、ようやく緊急事態宣言が解除されました（10月21日）。少しは気分も安らぎますが油断はできません。

10月に入り感染者数が激減していますが、各人の予防効果、ワクチン効果なのでしょうか、第六波とまらないことを願いたいものです。

暑い日々からいきなり冬となったような気候でしたが、内心嬉しく思うのは皆様も同じじゃないでしょうか。冬山、雪山に向けて計画にも弾みがついていると思います。夢実現へのトレーニングや、山スキー、アイスクライミング、アルパインクライミング等、入念な計画を心がけていただきますようお願いいたします。今年は全国の山で山岳遭難が多発しました。道迷いと転滑落、地震落石等々。

支部シリーズ山行も京都・滋賀支部らしい企画で、来年も多くの方に参加していただきましょう。

日本山岳会120周年記念行事では、古道調査を村上正古道調査委員長のもとで、東の鯖街道が終了間近です。これからも道なき道、消え去った道を探し求める面白い企画に多くの会員さんに参加していただきたい、参加できる計画も立案したいと考えています。

ヒマラヤ大縦走も来年には再開できるのではと期待しています。是非参加していただきたいと思います。

まだ本会員となっていない方には、早く本会員となっただけ全国に山仲間の輪を広げ、クラブライフと山登りをより豊かに楽しんでいただきたい。

来るべき新年が会員、友の会の皆様にとってより良い山日和となることをお祈り申し上げます。

良いお年をお迎えください。

巨木探訪シリーズ

湖東の巨木探訪

（自然保護部会7月例会）

岡田茂久

2021年7月29日、コロナウイルスまん延防止措置開始が講じられる直前、駆け込むようにしての「湖東の巨木探訪」であった。

四条大宮を8:30に出発、滋賀県湖東方面ということで五条通りから名神東ICに向かう。コロナ対策で車窓を少し開けての走行はクーラーの効率は悪いが、良く晴れた天候であり吹き込む外の風も案外さわやかである。今日の予定は湖東の9ヶ所を訪ねる貪欲な計画。まず最初の東近江市五箇荘「建部神社の大ケヤキ」探訪に向かう。

五箇荘は西に安土山に続く織山（観音寺山）、東は隣の愛荘町との境界である愛知川が流れ、南に太郎坊神社の在る箕作山を望み、町の中央を東海道新幹線と国道8号線が走る古来からの交通の要所で、「近江商人発祥の地・てんびんの里」として知られている。

「建部神社」は、大津市瀬田にある延喜式内名神大社近江一ノ宮の「建部大社」の元宮であるという。主神は大己貴命（大黒主神）と事代主神（大黒主神の子）で権神が日本武尊である。ちなみに建部大社は主神を日本武尊、権神は大己貴命と事代主神で、新宮と旧宮とは主神が入り替わっている。また「建部神社」は東近江市建部地区では無く、隣の五箇荘地区に位置するからややこしい。

周径6メートルの目当てのケヤキの巨木は本殿の横にあり、樹高は低いものの巨大な瘤が突き出た奇怪な形をしており、別名「がん封じの樫」という。拝殿脇にもケヤキの巨木があり、こちらはすうりと伸びた直幹であるが、これにも怪しげな瘤が浮き出ている。

9:40～9:50。

次は同じ五箇荘地区の木流町にある「苗村（なむら）神社のむく」。同名で読み方も同じの滋賀県蒲生郡竜王町の「苗村神社」は、国宝の桧皮（ひわだ）葺き三間社流造り西本殿を有し、豪壮な拝殿と楼門は重要文化

財の神社で頼に有名であるが、こちらの五箇荘木流町の「苗村神社」は、道路に面した石作りの太鼓橋と狛犬は立派であるが、鳥居も神社碑も無く本殿前は殺風景な広場で、屋根付きの廊下で繋がった二棟の間社流造り社殿のみが建っており、背後に広がる社叢にも直径1メートル程度の大木は散見するが、ムクの巨木と思しき樹木は見られず既に枯死しているものと思われた。9:55～10:10

次いで同じ五箇荘の「小幡神社のケヤキ」周径6メートルを訪ねる。こちらの神社も場所は小幡町ではなく中町にある。明治43年に五社合計二十二神が合祀され一社になり、当然延喜式外社となり、大きな社碑には式外（舊に人偏）社とある。鳥居には存外な立派な扁額が掛かっていた。それぞれ立派な拝殿付の春日造の東本殿、八幡造の西本殿の二社殿があり、おまけに境内には稲荷神社まで祀られている。たまたま出会った神職に聞くと、残念ながら「小幡神社のケヤキ」も既に枯死してしまっており、残骸らしきカワラタケに覆われた、枯木の輪切りが境内の隅に転がっていた。10:20～10:35

次も同じ五箇荘小幡町の「厳島神社のケヤキ」、こちらは小社で境内に松尾芭蕉の「八九間空で雨降る柳かな」の碑がある。境内には巨木の影も無く付近には聞く人も居なくて巨木は消息不明。

次に向かったのは五箇荘地区から国道8号線を北上し、愛知川を渡った愛荘町長野の「大隴(たいろう)神社」の御神木。本殿横で大事に立派な石柱の柵に囲われ、大きく捩じれた異形の表皮を持つ周径5メートルの大杉は見事であった。大隴神社には愛荘町の蔵元で鈴鹿山系の伏流水で新米を醸した白酒を醸造し、皇居行事の新嘗祭を始め全国の神社にお神酒を奉納、高級銘酒「旭日」で有名な藤居本家（ふじいほんけ）が隣接する。豪壮な醸造蔵の続く様は見ものである。10:55～11:05

国道8号線を東近江市に引き返し、五箇荘地区を抜けて新幹線沿いに近江八幡市安土町に入り、次の目的

地は鵜山（観音寺山）と箕作山の間の隘路で、「老蘇の森」の「奥石神社の大杉」周径5メートルである。「奥石神社」は延喜式内社で今は祭神として「天児屋根命」を祀っているが、元は鵜山を御神体とする古代信仰の祭祀所が始まりという。

本殿は天正9年織田信長が造営させたもので桧皮葺の三間社流造で、豪華で優美な落ち着きを持った国指定重要文化財である。しかし周径5メートルで直幹の大杉は巨木を見慣れた目には平凡で、「老蘇の森」は万葉の昔から歌にも詠まれた名所であったが、現代に至っては国道8号線の喧噪さと、新幹線通過時の地響きが伝わり、残念ながら往時の幽邃な聖地とは思えない現状である。11:20～11:30

次は近江八幡市御所ノ内町須佐之男命を祀る「出雲神社の大杉」。田園の中に島のように三等三角点122.8m点名出雲を頂点として、鬱蒼とした森が神社の裏手に広がっている。大きな拝殿に三間社流造の本殿。大杉は長い参道の脇に実測周径6.1メートルである。地表4メートルあたりで2股に別れており、参道に面した根元は大きく抉れ木芯が現れているが、根張りも良く樹勢はすこぶる旺盛であった。

正面参道から本殿を右に回り込んだ處にある隣接の「加茂神社」は、何段にも連なる豪壮な岩塊に小さな祠が祀られ、古代信仰然とした神寂びた雰囲気 of the 社であった。

昼食場所を探しに立ち寄った日牟礼神社前で、客引きのおばちゃんに捕まり案内された「市」という店は、「赤こんにゃく」が名物で案外美味だった。

午後一番は有名な八幡山の西南尾根末端にある「青根八幡宮の大杉」周径5メートルを訪ねる。昼食直後であり、神社駐車場から50メートル程の本殿までの参道登坂は、愛宕山表参道に匹敵するほどえらかった。大杉は樹高としては余り無いものの、拝殿横の本殿石段脇にでんと存在感を誇示していた。見晴らし抜群の豊臣秀次所縁の八満山城址を経て、北端の百々神社に



建部神社「癌封じ」大ケヤキ周径6メートル



近江八幡市「青根八幡宮」大杉周径6メートル

到る八幡山山系縦走路は、この青根八幡宮を起点としている。12:55～13:10

最後は青根八幡宮から西へ4キロ程離れた田園の中の加茂集落に「賀茂神社」を訪ねる。

京都賀茂神社第一の分社で賀茂神社競馬の放牧場として知られ、この辺り古代から御猟野と呼ばれている。しかし本殿前にあった樹齢1000年周径5メートルという目的の神杉は、平成30年の台風21号で倒壊しており、折れて無残な根元の残骸がそのまま残されていた。

13:20～13:30

今回の訪問場所は多かったものの、既に枯死したり台風で倒壊したりした巨木が多く、結果的には残念であった。あとは一路湖岸道路を巡り琵琶湖大橋から途中経由で帰京した。

実施日：2021年7月29日（木）

参加者：山村孝夫（L）、岡田茂久、柏木俊二、方山宗子、
中川 寛

健幸登山教室 5

沢登り

松下征文

夏の長雨で二度延期した沢登りを8月29日に比良明王谷で実施しました。当初13名の参加予定であったが延期日程では参加出来ないとのことで参加者は6名となった。おりしも緊急事態宣言の発出となりましたが、6名ならば抵触しないだろうと思い実施しました。

坊村駐車場所に8:30集合で、沢装備を付けて明王院橋へ向かう。晴れの日が4日ほど続いたが長雨の影響でまだ増水が引いていない。

須藤邦裕CLの指導で沢を詰めて行く、今日の参加者は沢登りの受講経験者だが、沢登りの基本を再度しっかり習得してもらおう。しかし、沢によってさまざまな状況に対応するためには数ある比良の沢で経験を積んでいただきたい。会員同士良きパートナーとなることを願う。

同じ沢でも今までとは違うルートを選んだり、水の流れを読んだりして、行けるかなと思うところを登ってみる。泳ぎや、飛び込み、へつり、ロープのフックスと通過、ロープ下降等をこれからの沢登りにいかせるようになってもらいたい。

一般ルートや、岩場クライミングでも基本の大切さを理解して少しでも安全に登山を楽しんでいただきたい。

三の滝から坊村への林道は、5月の大雨の影響で土砂崩れして林道が塞がっています。それでもすでにしっかりした踏み跡が付いていました。この林道は季節を問わず落石への注意が必要です。

実施日：2021年8月29日（日）

参加者：須藤邦裕（L）松下征文（SL）松下征吾、
（友の会）工藤史子、上野陽子、植村公一

健幸登山教室 6

藤原岳(1140m)読図講習山行

松下征文

読図山行の場所として鈴鹿山脈最高峰の御池岳南東に位置する藤原岳（1140m）を選び、参加者は4名と少なかったが、時間をかけて地形図読みをしながら汗を流した。

いなべ市側からの大貝戸道の往復とした。緊急事態宣言下で登山者用のガレージは閉鎖されていた。西藤原駅前の駐車場に止めさせていただく。

藤原岳は雪解けから初夏にかけて美しい花が楽しめるところで、花の百名山として親しまれている。

地元の方々の登山者に対する優しい気持ちが伝わってくる整備された登山道や、登山口のトイレ、休憩所設備、山頂稜線の避難小屋として開放されている藤原山荘等々、我々利用するものは大切に使いたい。

今回のルートは急な登りが続くが地形図から登山道の概念を読み取りやすい。しかし山頂周辺はわずかな高低差があるものの広々と開けていてガスが出ると迷いやすい地形である。このような場所でも読図がしっかり出来るようになって道迷いを起こさないようにしてもらいたい。

当日の詳しい記録等は友の会の仲井会員に書いていただき支部HPにアップしました。

実施日：2021年9月5日（日）

参加者：松下征文（L）
（友の会）仲井照雄、上野陽子、中塚智子

山歩会例会

弥仙山

京極明美

弥仙山は「丹波富士」と呼ばれ、綾部の北東に位置する白山火山帯の山です。修験道の行場だった金峯神社は、明治初年まで女人禁制だったとのこと。東北にそびえる青葉山（若狭富士）と高さを競ったという石積信仰が伝えられています。

「味夢の里」9時に車3台が集合して小休止。その後登山口目指して再び車に乗って於与岐（およぎ）町に入ると、前方に槍ヶ岳の穂先のような山が見え、弥仙山だと教えていただきました。槍ヶ岳に登ったとき自分の足の短さと腕力の無さを痛感したことが思い出されました。

登山口に駐車して皆様とのお挨拶の時、今日の記録係に指名され不安になりましたが書くしかないと。

10時出発「改心の道」の看板を見て鳥居をくぐる。すぐ左に水の神様を祀る水分（みくまり）神社があり、今日の安全登山を祈願しました。実は見過ごしてしまいましたが、この神社は子宝祈願の神社で狛犬が子供を抱えているのです。「右弥仙山参道」の石碑に従って川を渡り杉林の急坂を登る。「大本教開祖修業の滝」の立て札、於成寺古跡、そして「大本教開祖御出修之地」の立派な石碑が建っていた。

苔むした（下りに使うと滑りやすそうな）急な石段を登りきると於成（おなり）神社に到着。この神社は火の神様を祀っています。小休止の後、トチノ木の大木に逢いそして10m程の大岩があり、細い木が大岩を支えているように見えます。またすぐに急な石段と大きなトチノ木。11時40分三角点への分岐到着。12時10分三等三角点到着。眺望は全くダメですが、皆で記念撮影。立派なサルノコシカケを発見。

先ほどの分岐点に戻り、お昼は金峯神社でと決めて目指すことに。ほどなく「改心の道」と金峯神社との分岐点があり、「改心の道」の謂れは東に建つ光明寺の天狗が和尚が不在の時に暴れまわり、説教されて詫言証文を差し出したという民話から名付けられたとのこと。朝が早かった分お腹が鳴りだした頃、12時50分頂上の古い立派な金峯神社到着。神社の左手に石積信仰の案内のように小石が山のように積まれました。お参りをして昼食と休憩。展望はいまいち。毎年5月3日に地元於与岐町の方達が豊作と家族の安全を祈願して祭礼をされているとありました。

13時40分ゆっくり過ぎた金峯神社を出発し、上り下りを繰り返し杉林の中の急な下りを下りきるとな

だらかで歩きやすい。14時40分於与岐町四等三角点に到着。四等の文字が左から右だから新しい三角点らしい。15時10分於与岐町集落と日置谷への分岐に到着。そこからはジグザグの急な下りで、砂地でヒヤッとするトラバース箇所が2か所あり皆様にご迷惑をお掛けしました。丸木橋を渡って林道を歩き登山口に16時20分到着。誰にも出会わない静かな山歩きでした。京都市内に入るころ日没を迎え、秋の日の短さを感じました。

大倉リーダー、ご一緒下さいました皆様お世話になりました。長時間運転をしていただいた中川様、古谷様、馬場様ありがとうございました。

実施日：2021年9月28日（火）

参加者：大倉寛次郎（L）、中川 寛（SL）、宇都宮道人、
遠藤将一、能田直子、
（友の会）古谷英二、馬場信枝、京極明美



弥仙山三角点を囲んで

巨木探訪シリーズ

滋賀県東近江君ヶ畑周辺

(自然保護部会 9月例会)

能田 成

9月も後2日を残すのみに、初秋には相応しからぬ生温い風が吹いている。太平洋の彼方を北上する台風の影響か。今回の目的地は湖東・君ヶ畑方面なので、集合場所の四条大宮から1号線を走る。名神を八日市インターで降り東へ向かう。蕎麦畑の白い花が美しい。永源寺を過ぎて、黄和田町の日吉神社にあるはずの巨木が見当たらない。本日の探訪は空振りで始まった。

日吉神社を断念して、この日のメインである君ヶ畑へと向かったが、道路標識に騙されて少し時間をロスした。しかし今度は間違いなく大木に御対面できた。ここは大皇器（おおきみき）地租神社という全国木地師の元締め神社で、その隣には高松御所という有難い名前の鄙びた建物がある。祭られているのは惟喬親王（文徳天皇の第一皇子）である。何故、天皇の第一皇子がこの山奥へ幽閉されたのか判らない。859年のことだから平安時代のことだ。親王が木地師の胴元に納まったのが幸せであったかどうか。今となっては知る由もないが、杉の大木とともにその名を残している。

3番目の目標は北へ山を越えて多賀町萱原にある萱原神社の周囲5.3メートルの杉だが、それらしい大木が見えない。しかしリーダーが神社の裏手にそれらしい切り株を発見して、一件落着。とは言え、いささか切れ味が良くない。このすぐ近くにある神明社の周囲6メートルの樺も切り株しか残っていなかった。これまでのところ、やや打率が悪い。気にせずに次の目的地大瀧神社へと向かう。ここはこの地域ではかなり有名なところらしい。神社も立派だし、周囲5.5メートルの杉も立派な姿だ。裏を流れる犬上川の淵も見ごたえがある。この岸壁は湖東流紋岩かもしれないが、野外地質が苦手な地球化学者の妄言は信用には値しない。

流石に木地師の本拠地だけのことはあって、社務所のわきに野球選手の姿をした木彫りの犬が9体並んでいる。ユーモラスではあるが、作品の出来・不出来の判断は保留する。時間通りに空腹を感じたので、ここで昼食とする。

6本目の木は大瀧神社から名神高速道を渡って、西へ2キロのところにある甲良神社の樺（5.5メートル）である。淡海国の名木であるらしい。ここからは名神道に沿って南下し、次なる目的地は池寺へ向かう。この辺りは鈴鹿山塊が近江平野に接しているところなので、掘れば良質の水が湧いたに違いない。いくつかた

め池がある。そして地名は池寺である。杉は道路わきに平然と屹立しているが、どうして立派な姿である。地上およそ4メートルあたりで幹は数本に分かれて、夫々が天空へと伸びている。一見出鱈目にも見えるが、全体の姿は良い。

池寺から4キロに真美の春日大社が最後の見学地、春日神社である。文安元年建立と聴いて何時頃なのか見当もつかないが、1444年である。重要文化財指定も明治44年で重要度も三役級なのだが、どの樹がお目当ての椋木か分らない。ひょっとしたらこの切り株か？という切れ味の悪い結末であった。今回訪れたところは文化財としては一流どころだが、樹木の保存に関しては一級とは言い難かった。

実施日：2021年9月30日（木）

参加者：山村孝夫（L）、柏木俊二、方山宗子、能田 成

今西錦司レリーフの集い

中川 寛

毎年5月に実施されていた今西錦司レリーフの集いだが、昨年、今年とコロナ禍で緊急事態宣言が発令されていたため中止となっていた。コロナの感染者数も減少し、緊急事態宣言が解除されたのを受けて、10月2日（土）に2年半ぶりにレリーフを訪れることになった。

直谷からレリーフへの登山道が倒木のため歩行困難となっており、今回は芹生峠から北山荘へ、そしてレリーフへと歩いた。今回は、直谷からの道を歩行可能とするため、チェンソー、スコップ、鍬などの道具を準備しレリーフに向かうことになった。

9時に植物園北門に集合し、車3台で直谷へと向かった。出会橋から中津川沿いの林道を松尾谷分かれまでは順調に進むことができた。ここから先は倒木が予想され、車2台で慎重に進んで行くと予想通り前方に倒木があり道をふさいでいた。早速準備していたチェンソーで倒木を処理して直谷へと車を進め、いつも駐車している滝谷峠への分岐手前に到着できた。

車を降り、身支度を整えてレリーフへと向かうとやがて数十本の倒木が道をふさいでおり、進むことができない。ここからは倒木を切断し、あるいは乗り越え、下を潜りやすく道を整え、悪戦苦闘して前進した。アズキ坂からレリーフのある谷筋へ下りる道もひどい状態で、道を作りながら慎重に進み谷筋に下りレリーフ前へと到着した。



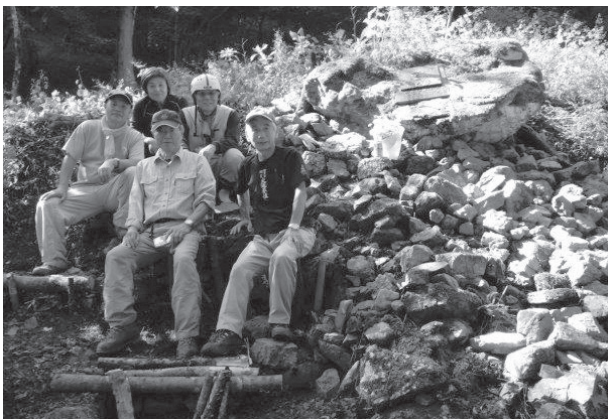
倒木と格闘しながら前進

幸いレリーフに異常はなく、石積みにも大きな崩れはなかったので一安心。ただ、石積み横に階段状に作ったステップに崩れが見られ、新しい木杭で補強作業を行った。レリーフの汚れをきれいに拭い、花と冷えたビールを供え今西先生を偲んだ。

レリーフ上部は一面雑草に覆われていたが、件の一等三角点標石の周りの雑草を払い、きれいになった所で朝倉さんを偲び全員でお焼香した。

最後に、「今西錦司レリーフを守る会」の会計報告を行い、野村綾子さんが新たに担当委員に加わっていただくことになって、この日の集いを終了した。

今回は多くの作業で時間が過ぎ、北山荘には立ち寄れなかった。来年5月には北山荘で休みたいと思う。皆様お疲れさまでした。そしてありがとうございました。



レリーフの前にて

実施日：2021年10月2日（土）

参加者：大槻雅弘、大倉寛治郎、駒井治雄、田中昌二郎、
中川 寛、野村綾子

テント泊山行

おうちようやま

赤兎山 1629m・大長山 1671m

田中昌二郎

10月9日（土）勝山から白峰へ抜けるお馴染みのR157を鋭角に右折して小原林道に入る。小原集落跡にはゲートがあり、管理人から入山協力金一人400円が徴収される。しかし舗装はほぼ完璧で、まだ緑の濃い広葉樹林の中を30分ほど快適にドライブして、標高1050mを越えた辺り、野球場かと思うほど広々とした駐車場に着く（15:30）。この深い谷一帯に杉や檜の植林がほとんど見当たらないのが不思議で管理人にたずねると、小原集落は炭焼きを生業としてきた村だったからとのことで納得がいった。

下山者の車がなくなるのを待ってテント設営。アサリ風味のスパゲッティーあり、舞茸とベーコンと野菜たっぷりのトマト煮あり、コンビニ調達のビーフシチューなど各自好みの夕食とビールで暮れなずむ空の下歓談。これぞテント泊の醍醐味である。午後6時には陽が暮れてきたので、各自のテントに入り爆睡。しかし一寝入りした夜半ごろから、谷筋を吹き降ろす猛烈な風にテントを持っていかれそうになる。Mt.レーニアでもあまりの好天の後にこんなことがあったなあーと思い出しながら、何度もテントのポールを押さえて朝を迎えた。

10日（日）午前6時30分出発、快晴。加越国境尾根から白山連峰の大展望の期待が高まる。なだらかな広葉樹林の中、古の越前禅定道をゆっくり登って小原峠に着く（7:30）。加越国境を南へ、大舟山との分岐へと標高差150m余り登る。大船山分岐に到着（8:00）。ここから南西へ大舟山、経ヶ岳への径は厳しそうである。我々は南東へ、真っ赤な実をたくさんつけたナナカマドやブナの幹に纏わりついたツタウルシの見事な紅のグラデーションに見とれながら、標高差100m程を登って赤兎山の頂上に着く（8:20）。眼前に白山、別山が頂上部に白雲をたなびかせてそびえ立っていた。赤兎山から東へ伸びる尾根上の湿原の紅葉が素晴らしいと聞いたので、その昔、別山を越え三ノ峰から逆落としの急激な下りに半ば音を上げながら辿り着いた杉峠の辺りも見えるか、避難小屋の先、尾根の切れ落ちる先端まで下ってみたが、紅葉もなく、杉峠も望めず、赤兎山頂上へ登り返し、往路を小原峠に戻り大休止。朝が早かったのでここで第一回目のエネルギー補給をした（10:10）。

休憩後は国境尾根を北へ、大長山へ向かう。熊に遭遇したとの話も聞こえてくるが、まずむこうがよけて

くると念じて歩き出す。先ず刈安山 1503m へ。午前
に大舟山分岐から眺めたなだらかな山容からの予想と
は違って、急なアップダウンが続き、思いのほか苦勞
させられた (10:50)。一方、その先はなだらかな尾根
歩きとなり、ブナの古木や紅葉に見とれているうちに
1530m ピークを通り越して、難なく大長山との鞍部に
着いた (12:00)。鞍部からの大長山の眺めはなかなか
立派で、尾根の両サイドはガレてスパッと切れ落ちて
いる。以前、関西学院大学のワンダーホーゲル部が厳
冬期にこの山塊を縦走中に大雪に遭遇し、大長山に登
り返すことが出来なかったのもうなずけた。気を引き
締めて、さあ最後の登りだと歩き出す目の前に、大き
な熊の糞が 2 個、デーンと落ちていたが、委細構わず、
4 箇所のガレ場の急な登りに設置されたトラロープを
頼りによじ登って、樹林に囲まれた狭い大長山頂上に
着く (12:35)。白山の眺望を得ようと尾根の北へ進ん
でみるが、冷たい風が吹きわたっていて、午前中別山
にあった雲が北へ広がったのか白山は全山雲の中だっ
た。風をよけて頂上で 40 分ほど昼食休憩し、三角点を
囲んで記念写真撮影の後、下山にかかる。特にトラロー
プの箇所の通過は、安全第一に一人ずつ慎重に下った。
刈安山の登り返しに最後の力を絞って、3 度目の小原
峠帰着である (14:20)、やれやれと大休止の後、なだ
らかな古道をゆっくり名残惜しみながら下って駐車場
に帰着した (15:15)。



赤兎山遠望

赤兎山と大長山、紅葉と白山を眺めての二山往復は
楽しかったが、予想以上に厳しく、体力の低下を実感
させられた。今後はもっと余裕をもったプラン作成を
心掛けたい。

実施日：2021 年 10 月 9 日 (土) ～ 10 日 (日)

参加者：田中昌二郎 (L)、(友の会) 古谷英二 (SL)、
今中三恵子



大長山山頂にて

健幸登山教室 7

小女郎谷より蓬莱山

松下征文

昨日の天気予報で天気が悪いなと思っていましたが、
このような天候を体験することも必要であり、参加者
4 名は蓬莱駅を車で上部の駐車スペースへ移動する。

廃墟となっている別荘地を過ぎて舗装林道を終点の
堰堤下まで歩く。

ここより登山道となり杉の人工林を登って行く、地
形図を整置して小女郎谷ルート of 現在地確認と進むべ
き方向を説明してもらう。三名は読図にも慣れてきた
のでそのままスタートする。標高 700m くらいから自
然林となるが、ガスで視界は悪い。一日中ガスと小雨
でした。小女郎峠に出ると西風が吹きつけてくる。予
定変更して小女郎池を往復して権現山往復は中止する。
耐寒服装にして蓬莱山を往復する。

一等三角点の山頂は国定公園でありながら痛ましい

姿である。強風と氷雨で視界も悪いので写真を撮りそくさと小女郎峠に戻る。

小女郎谷上部は激しい浸食で登り辛い。谷全体としても荒れており初心者だけの登山には勧められなくなった。これも自然の姿であり手を加える必要もないだろう。

健幸登山教室に参加してきた3名は、今後自分で計画して登ることに心配はないと思う。

参加者のお二人に山行記をお願いしています。HPにアップします。

実施日：2021年10月17日（日）

参加者：松下征文（L）、

（友の会）宅間 仁、仲井照雄、上野陽子

個人山行

新潟県 火打山・妙高山縦走記

仲井照雄

7月23日（金） 前日泊まった民宿のご主人に、火打山登山口の笹ヶ峰（標高300m）まで、車で送っていただいた。途中、子牛を育てるための牧場が広がり、牧歌的な雰囲気漂う。本日の天気予報では、午後にはわか雨があり、降水確率は30%。今も山手に雲がかかっている。火打山に登る午後に雨に遭わなければいいのだが。午前7時45分 登山口で雷鳥保護協力金500円と登山届を提出して、出発する。既に早朝から200人近く登っているという。火打山の山頂までの9kmの間、1km毎に標識が道端に見える。ブナ林の中を黒沢の溪流に平行して歩く。林の中で直射日光が当たらないが、暑くて汗が出る。

午前8時20分 黒沢橋を通過。大きな岩と岩の間から水が勢いよく流れ落ちる。やがて十二曲がり（標高1790m）に来ると、急坂となり息が弾む。気温も高く上着が汗でぐっしょりとなる。ブナ林とミズナラ林が混じる。登山道に木の根があちこち露出し、小岩がごろごろころがっている。思わず足下に注意を集中する。

午前10時20分 富士見平（2000m）に到着。登山口から約700m、2時間近くひたすら登ってきた。この辺りから、なだらかな山並みとなり、北西の方向に雲のかかった火打山が見える。白い斑点状の残雪に、標高が上がってきたことを感じる。しばらくすると、本日泊まる高谷池ヒュッテの赤い屋根が見えてきた。十二曲がりて疲れた体には元気が湧いてくる。

午前11時20分 高谷池ヒュッテ（2000m）に到着。検温後、宿泊手続きをし、昼食をとる。新型コロナウイルス対策のため、宿泊者数を定員の50%に限定しているという。このため、寝室はゆったり余裕がある。隣の境に透明の飛沫防止アクリル板が張ってある。今夜はリラックスして寝られそうだ。

午後0時30分 ヒュッテに荷物を置き、いよいよ火打山（2461m）へ向かう。山頂が近づいてきて山容に迫力を感じる。今までの登りの景色が一変する。高層湿原が現れる。この辺りは、平坦な湿地帯が広がり、整備された木道を歩く。直径50m～100m程の池塘が点在している。尾瀬のような景色である。目の前に雪渓が広がる。高山植物が咲いている。調べるとチシマザサ・ハクサンコザクラ・ツガザクラ・チングルマ等。7月下旬までが開花期という。野鳥の囀りも聞える。景色に魅了されながら写真を撮る何枚も撮るので、先が進まない。一方、午前中の雲が空全体に広がり出し、天気が怪しくなってきた。バラバラと小雨が降り出す。北西の焼山の雲間から雷鳴が聞える。午後2時10分不安を抱きながら、火打山山頂に到着。幸い天気は回復に向かい、上空から強い日差しが刺す。晴れると平地と変わらない暑さとなる。午後3時30分 高谷池ヒュッテに戻り、宿泊する。

7月24日（土） 午前6時40分 高谷池ヒュッテを出発し、妙高山（2454m）を縦走し、燕温泉（1170m）まで下るコース。青空が見える。今日は妙高山直下の急登と、下りの鎖場が慎重を要しそうだ。登山道沿いにクマザサが広がっている。

午前8時20分 大蔵乗越（2150m）に到着。目前に巨大な妙高山が聳えているはずだが、山頂付近は雲がかかって見えない。昨日同様、次第に雲が広がってきた。時折、強い日差しが刺す。やがて小さな雪渓をトラバースする。雪渓の空洞の底で水が流れている音がする。なだらかな火打山と対照的に、妙高山は荒々しい火山の印象だ。

午前9時15分長助池分岐に到着。ここから急坂が続く。木々の間に高さ5m位の岩があちこちに見えてきた。妙高山が爆発したときの溶岩であることが分かる。硫黄の臭いが漂う。息を整えないと歩けない。汗がどんどん出るため、頻繁に水分補給する。麓の平地より湿度は低いが、気温は高い。やがて山頂の稜線が見えてきた。

午前10時55分 妙高山北峰（2446m）に到着。続いて妙高山南峰へ向かう。

午前11時20分 妙高山南峰（2454m）の到着。石川県から日帰り登山で来た登山者と談笑する。麓の山は雲が張り付いているが、上空は青空が広がっている。直射日光で暑い。これから燕温泉までひたすら下る。

鎖場（2260m）に到着。自然石をくり抜いた足場を鎖を持ちながら、一步一步慎重に30m近く下る。ここまで来れば危ない箇所は終わる。

午後1時15分 天狗堂（1930m）に到着。妙高山山頂から約500m下ってきて、低地の樹木が増えてきた。蒸し暑さを感じる。

午後4時 燕登山道を下り、硫黄臭が強くなる。近くに温泉の源泉があるようだ。最終地の燕温泉に無事到着。

実施日：2021年7月22日（木）～7月24日（土）

山水会講演会

「野生の山へ～北海道の山・奥美濃の山」講演会報告

2021年10月16日（土） 同志社大学新島会館

伊原哲士

今年6月に、旧関西学生山岳連盟時代の山仲間である片岡泰男氏（東海支部所属・大阪市立大学山岳部OB）から面白い情報が舞い込んだ。現東海支部技術向上委員会の委員長の清水克宏氏がナカニシヤ出版から『岐阜百秀山』を出版したという。

京都や滋賀、大阪や神戸を含む旧き良き時代の関西の岳人は「奥美濃や岐阜の山々」を好んで登る。特に京都は「奥美濃の山」を好んで登った元日本山岳会会長の今西錦司さんの薫陶を受けた人も多い。今西さんは京都大学定年退官後、岐阜大学の学長に就任した際に「日本山岳会岐阜支部」を設立した。その縁で、1986年に京都支部（現京都・滋賀支部）が設立されるまで、日本山岳会は岐阜支部に在籍した人も少なくない。

京都・滋賀支部では「山水会」の講演も近年は低迷している。面白い企画なので何とか京都でも出来ないかと模索した。大きな問題は「新型コロナウイルス」の感染状況だった。正直、講演会の開催を支部役員会に諮った時点の6月は開催出来るかどうかは予測がつかなかった。また、公共の会場は「新型コロナウイルス」の感染状況により突然に閉館になる懸念もあった。

若き岳人への理論武装の一人でもあった初代南極越冬隊長で元日本山岳会会長の西堀栄三郎さんは「ヒマラヤ登山等の困難な取り組みをやる時は、やるかやらないかを先に決めて行動すると良い。準備しながら調査しながらだと挫けることがある」と言っていた。故に片岡氏と協議して、個人的には「やりたい」と決めた。それぞれの支部や関係先に相談し、日時は10月16日（土）と決まった。会場については、公共の会館より閉館のリスクの少

ない同志社大学新島会館が、東海支部和田豊司元支部長と同志社大学山岳会の尽力により使用できることになった。「新型コロナウイルス」の状況により「緊急事態宣言」が発令された場合は「中止」を参加者に連絡しなければならない事も発生する可能性もあり「事前申し込み制」として参加者を把握することにした。

時間も少し取れるので、「イグルー登山」等で若手の岳人に人気のある北海道大学山岳部OBの米山悟氏にも講演をお願いし、結果としては清水氏との二部立て中身の濃い講演会の開催となった。講演のタイトルも「野生の山へ～北海道の山・奥美濃の山」とした。

講演者の略歴と「演題」は次のとおり。

米山悟氏。1964年松本市生まれ。北大山岳部OB、NHKの山岳カメラマン。札幌、長野、東京、名古屋、函館、青森、甲府、豊橋、松本、名古屋と転勤し、東日本全域を登る。2016年10月、「冒険登山のすすめ」（ちくまブリーマー新書）上梓。SNSサイト「ヤマレコ」に全ての登山記録を登録、人気を博す。また「イグルースキー米山」としてイグルー技術を講演会やSNSで紹介している。その筋のファンも多い。演題「北海道式の山の登り方。北の山への誘い。北の山のイグルー技術考察」。

清水克宏氏。1958年大垣市生まれ。日本300名山、全都道府県最高峰、日本全国800以上の山、海外の山にも登山。現日本山岳会東海支部技術向上委員長、大垣山岳協会常任理事。約5年間をかけて岐阜県の全454山のうち道なき山を多数含む200山あまりを踏査し、2021年5月『森の国水の国 岐阜百秀山』（ナカニシヤ出版）上梓。演題「京都の岳人が拓いた奥美濃の道なき山の今—『森の国水の国 岐阜百秀山』出版にあたって」

「野生の山へ～北海道の山・奥美濃の山」の講演は10月16日（土）に同志社大学新島会館で予定どおり開催できた。参加者は55名だった。参加団体は日本山岳会京都・滋賀支部、関西支部、東海支部、首都圏。同志社大学山岳会、同志社大学山岳部、大阪市立大学山岳会。京都府山岳連盟。滋賀県山岳連盟。北山の会、藤尾の森づくりの会等である。

開会の挨拶は京都・滋賀支部の松下征文支部長、総合司会は片岡泰男東海支部副支部長。閉会挨拶は大日常男同志社大学山岳会会長がおこなった。

米山悟氏の講演は北大山岳部の伝統の中で培った「イグルー」登山の話。確かに雪山で重いテントを捨てイグルーに切り替えると、その分の装備も軽量化。行動範囲も広がる。また雪洞よりもイグルーは「概ね30cm以上の少ない雪」で設営出来るのが良い。

清水克宏氏の講演は「奥美濃の山の今」についての話し。「岐阜の山」についてまとまって紹介したのは『ぎふ百山』（1975年岐阜県産学連盟編集）に続いて45年ぶりとなるのが清水氏の『森の国水の国 岐阜百秀山』

である。残雪期にしかたどり着けない山も多く紹介されている。

結局、「野生の山」とは何か。米山氏は地下足袋を愛用している。登山靴と違い小さな石にも敏感になる。その分、自然と一体となる。清水氏の道なき岐阜の山も、道がなければ残雪期にたどり着けば良いという考え方だ。山はそこにある。山の動物は動き回っている。人も然り。既成概念と捕らわれず、本来の野生動物としての人の本能を蘇らせ楽しむのもまた登山であると思った。

懇親会は15名参加。河原町のミュンヘンで開催した。翌日は米山悟氏・米山杉氏夫妻、片岡泰男氏、清水克宏氏を森栄司委員の案内で清水寺を含む東山界隈を案内して散会した。



同志社大学山岳会大日会長

山書会

山へ行けないなら本を読もう。

竹下節子

働いていた頃は混沌とした毎日を過ごしていた。そんな時期にやまの本と知り合った。

同じローカル線で友達になった友人に山を教えてもらい、次々と山へ行き出した。仕事で山へ行けない時は本屋さんに通う。山に触れていたい一心で読みだした。最初に出会ったやま本は新田次郎の「孤高の人」安い文庫本で買って2度読み返した。やりきれない余韻が気持ちを引きずった。それから新田作品にはまって行った。「芙蓉の人」「劔岳 点の記」「強力伝」「栄光の岸壁」「風の遺産」……等々40年ほど前のこと。

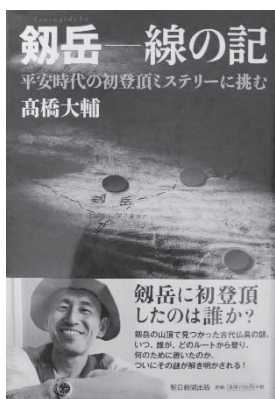
時は過ぎて新型コロナウイルスの脅威にさらされ約2年になる。ステイホーム、加齢も手伝って山は段々遠のいて行く。そんなある日のラジオ番組「山カフェ」からマスターの声。お客様は高橋大輔さんです。と流れて来た。フィギュアスケート選手？「劔岳 線の記」の著者だった。点ではなく線の話に耳を傾けているとかつてNHK BSで見た一躍動する大自然奇跡の絶景ストーリー「劔岳の謎に挑む」と一致した。

思い起こすと「劔岳 点の記」は陸軍測量官柴崎芳太郎率いる一行が劔岳初登頂と三角点埋設の至上命令を果たした山岳小説だった。様々な困難と苦闘が描かれている。そして未登頂のはずの劔岳は柴崎隊よりはるか昔に登頂されていた事実を見つけてしまう。その謎が第三章にまとめてある。(1983年文庫本第2刷)

「劔岳 線の記」—平安時代の初登頂ミステリーに挑む—は柴崎隊が残した明治の謎に4年を費やす探検によって徹底的に調べ解き明かしていく話である。高橋大輔は千年も昔に誰が？何処をどのように登ったのか？埋もれた古道の真実に近づく為に5度の劔岳登頂を果たしている。明治期と平安期の2人の探検家の見えない接点をさぐり当て新田次郎が知らなかった劔岳の点から線へとつないだ。

私は高橋大輔さんをこの本で知りました。現実にあったことを実証するスタイルの探検家らしいです。手つかずの大自然に自らの足で辿り“真実かも知れない”に近づいていく強者のようです。その探検ストーリーは興味深く謎解きの過程がとても面白い一冊でした。

ご紹介します。



題名『劔岳 線の記』
－ 平安時代の初登頂ミステリーに挑む－

2020年 8月30日 第1刷発行

2020年 11月30日 第3刷発行

頁数 259

著者：高橋大輔

発行者：三宮博信

発行所：朝日新聞社出版

◎お薦めです。是非お読みください。

○合わせて読むと参考になります。



題名『劔岳 <点の記>』

1981年 1月25日 第1刷発行

1983年 5月 1日 第2刷発行

頁数 349

著者：新田次郎

発行者：西永達夫

発行所：株式会社文藝春秋

山に行けないから読んだ40年前のやま本と再会しました。

行 事 案 内

- ◇ 山行への参加申込は、例会名、会員番号、氏名、年齢、電話番号等、緊急連絡先および山岳保険の加入・種類など必要事項を記入の上、郵送または FAX で。
- ◇ 「★マイカー分乗」の山行は参加者の自家用車利用を予定しています。ご協力をお願いします。
- ◇ 思わぬところで遭難事故が発生します。車両保険と同様、また、ご家族のためにも山岳保険の加入は登山者の常識です。会員各位のご理解をお願いいたします。

「日本山岳会京都・滋賀支部新年会」の案内

下記の日程で新型コロナウイルス等の感染対策を徹底した上で、支部の新年会を開催します。会員、友の会、会友の皆様はお忙しい頃と思いますが、是非、ご参加下さい。配偶者等の出席も歓迎です。出欠の連絡は、1月5日（水）までに同封のハガキ（63円切手を貼付下さい）もしくは下記の担当者までメール等をお願いします。今回は新年会のみとし酒類は控え気味に提供。オークションは中止します。

日 時：2022年1月12日（水） 午後6時30分から午後8時まで。

場 所：南禅寺「順正」
京都市左京区南禅寺草川町 60
電話：075-761-2311

会 費：6000円

申し込み、問い合わせ：

支部事務局
伊原 哲士

健幸登山教室—11 冬山入門 4—比良正面谷上部

日 時：2022年2月27日（日）

集 合：イン谷口駐車場

行 程：駐車場→大山口→堂満ルンゼ近辺→駐車場
（積雪状況で場所変更有）

地 形 図：1/25000 図「比良山」

山行の目安：体力2、技術3

内 容：雪洞、イグルー作りと冬山の楽しさと危険

担 当 者：松下征文

申 込：1月20日（木）までに所定事項記入の上、メールで担当者まで。

参 加 費：友の会—1500円
受講生—2000円

健幸登山教室—12

日 時：2022年3月6日（日）

集 合：イン谷口駐車場

行 程：駐車場→釈迦岳ワングル道→北比良峠→大山口→駐車場

地 形 図：1/25000 図「北小松」

山行の目安：体力3、技術2

内 容：残雪期の山登り

担 当 者：松下征文

申 込：2月10日（木）までに所定事項記入の上、メールで担当者まで。

参 加 費：友の会—1500円
受講生—2000円

山歩会例会

箕作山・太郎坊山

岩峰と天狗信仰の山へ

日 時：2022年3月22日（火）

集 合：近江鉄道市辺駅 9:00

行 程：市辺駅→船岡山→岩戸山→小脇山→箕作山→太郎坊山→太郎坊宮→太郎坊宮前駅

山行目安：体力2、技術2

地 形 図：1/25000 図「八日市」

担 当 者：中川 寛

申 込：3月15日（火）までに所定事項記入の上、FAX またはメールで担当者まで。

平日例会山行

クノスケ △ 586m

目的の山域・山名：南山城村にあり、山城谷川の北に位置する586mのクノスケ（二等三角点 点名 野殿村）

日 時：2022年1月20日（木）

集合場所・時間：参加者に連絡

行 程：JR 関西本線大河原駅→（山城谷川）→六番→559→クノスケ→弁天池→東海自然歩道→大河原駅

地 形 図：1/25000 図「笠置山」

山行の目安：体力 3、技術 3（体力・技術力は各担当の私感）

担当者・リーダー：田中昌二郎

申 込：1 月 11 日（水）までに所定事項記入の上、
FAX またはメールで担当者まで。

二の谷山 △ 608m

目的の山域・山名：滋賀県高島市今津町途中谷の北に
位置する二等三角点杉山村

日 時：2022 年 3 月 24 日（木）

集合場所・時間：参加者に連絡

行 程：防村駐車場⇒今津町途中谷 駐車→
・477→・545→二の谷山△ 608.2m（Ⅱ杉山
村）→往路下山

地 形 図：1/25000 図「饗庭野」「熊川」

山行の目安：体力 3、技術 3（体力・技術力は各担当の
私感）

担当者・リーダー：田中昌二郎

申 込：3 月 16 日（水）までに所定事項記入の上、
FAX またはメールで担当者まで。

スキー例会山行

野麦峠

行 先：野麦峠スキー場

日 時：2022 年 2 月 12 日（土）～13 日（日）

集 合：2 月 12 日（土）四条大宮嵐電前 午前 7 時
30 分

担 当 者：山村孝夫

申 込：1 月 15 日（土）までに所定事項記入の上、
葉書または電話で担当者まで。

「歴史と文化の山旅」（他支部との連携版）

『伊勢路庶民参詣道、伊勢守護朝熊山と熊野へ馬越峠越え』

2019 年の「富士山・山古道」に続く取り組みです。
「古道文化探索紀行」の第 2 弾で、静岡支部・関西支部・
千葉支部・本部科学委員会の『古道文化研究会』が主
催し連携します。

江戸時代盛況極めたお伊勢参りと紀伊山地の峠越え
となります。江戸・鎌倉の道普請文化を歩む参詣古道
です。

実施日程：2022 年 3 月 25 日（金）～27 日（日）

参加定員：20 名（貸し切りバス乗車の関係で定員に達
し次第締め切ります。）

宿泊予定：伊勢市割烹旅館・料理旅館おく文（0596-28-
2231）

熊野市駅前旅館・紀南荘（0597-85-2010）

舗装路移動：伊勢交通専用バス 25 人乗り

集合解散：集合：JR 伊勢市駅 13：00・・・解散：JR
熊野駅 12：30

歩行行程：

25 日 JR 伊勢市駅 13：00 発→外宮駐車場
→内宮参拝→朝熊 IC→朝熊神社→朝熊山登
山→外宮参拝→宿泊旅館着 18：30 着・・・バ
ス移動で朝熊山歩行

26 日 宿泊旅館 8：00 発→海山道の駅・馬
越峠入口→尾鷲神社→熊野新鹿 IC→東波田
須鎌倉歩道→熊野速玉大社→宿泊旅館 18：
30 着

27 日 宿泊旅館 8：30 発→市営バス松本峠周
遊→熊野駅 12：30 解散式

費用概算：約 35000 円

必須携帯：常備医薬品、マスクうがい備品、軽食、雨具
提供酒類：宿泊所のアルコール飲料は最低出費とします
ので差し入れ歓迎

補足事項：①参加ご希望者の提示必須項目は・・・
会員番号、モバイル、住所、緊急連絡先と氏名、
②山岳古道文化の研究探索のこれから・・・

申し込み先：

日本山岳会京都滋賀支部事務局
伊原 哲士

会務報告 支部役員会

第427回支部役員会

2021年8月4日（水）18:30～19:30 於：鴨沂会館

出席：11名 欠席：16名

「報告」

7月に実施された歴史と文化の山旅・斑鳩の里、第4回健康登山教室（沢登り）・神崎川、山歩会例会・繖山、巨木探訪・五個荘方面、大文字山納涼山行について報告。

支部長・事務局長報告

10月16日（土）に山水会講演会を実施する。多くの参加を期待する。遭難が多発しており、安全登山に留意されたい。

「計画」

8月に実施予定の山行計画について協議・承認。

「その他」

古道調査の進捗状況についての報告、京都新聞連載関連の報告があった。

第428回支部役員会

2021年9月1日（水）19:00～19:30 LINE 会議

出席：14名 欠席：13名

「報告」

8月に実施された第5回健幸登山教室・沢登り明王谷について報告。

支部長・事務局長報告

今年は北アルプス、富士山で記録的な遭難多発。

新入会員の紹介、友の会会員の入会承認、八木昭二会員の逝去が報告された。

「計画」

9月に実施予定の山行計画について協議・承認。

「その他」

古道調査の進捗状況についての報告、遭対委員から登山計画書の書き方についての提案、図書担当からの報告、京都新聞連載関連の報告があった。

第429回支部役員会

2021年10月6日（水）18:30～20:15（於）鴨沂会館（LINE 併用）

出席：14名 欠席：13名

「報告」

9月に実施された第6回健幸登山教室・藤原岳、山歩会例会・弥仙山、巨木探訪・君ヶ畑方面、今西錦司レリーフの集いについて報告。

支部長・事務局長報告

9月25日に行われた全国支部連絡会についての報告、新入会員の紹介、友の会会員の入会承認、個人情報取り扱いに関する注意喚起があった。

会計委員報告

2021年度支部会費の入金状況報告があった。未納者が多く対応を協議。

「計画」

10月に実施予定の山行計画について協議・承認。

「その他」

古道調査活動の報告、図書担当の報告、京都新聞連載関連の報告があった。

（中川 寛記）

＝次号 146 号 予告＝

2022 年 3 月 15 日発行 原稿締切 1 月 31 日
原稿送付先 編集担当 福田 文夫

＝あ と が き＝

山と一緒に、コロナもどこに危険が潜んでいるか、見いだせないのが現状です。しかし悩んでばかりでは、前に進みません。新緑の山も、紅葉の山も、そして純白の峰も、私達を待っていています。海外の山々には、まだ制限もありますが、日本の山の素晴らしさを、見いだすチャンスかもしれないかもしれません。じっとしてても、年齢だけは進みます。自分にあった山を見つけて、取りあえずは、山も、そして大好きな秘湯にも、とっぴり首まで浸かって純白の峰仰ぎましょう。あ～温泉大国万歳。

日本山岳会京都・滋賀支部会報「支部だより145号」

発行所 〒525-0072 草津市笠山3-6-6
松下征文方
日本山岳会京都・滋賀支部
発行者 松 下 征 文
編集者 幣 内 規 男
印刷 〒603-8148 京都市北区小山西花池町 1-8
(株) 土倉事務所
TEL 075-451-4844 FAX 075-441-0436

ぐるっと京都、歩いてみませんか？

京都一周 トレイル

マップ&ガイド

全5コース・
14ルートを楽しむ

バス・電車からアクセス便利なルートを紹介！

京都トレイルガイド協会 編

京都一周トレイル会 **公認**

※本書の売上の一部をコース整備協力費として
京都一周トレイル会へ寄附します。

交通機関から歩きやすい14ルートに分けて
全コースをガイド！ 分かりやすいマップと、
コースレベル・コースタイムも掲載。
好きなところから自分に合った歩き方を楽しめます。

ナカニシヤ出版

〒606-8161 京都市左京区一乗寺木ノ本町 15 <http://www.nakanishiya.co.jp/>
電話 075-723-0111 FAX 075-723-0095

1,540円(税込)・A5判・144頁

IWAI CYCLE

【木津屋橋本店】

〒600-8248

京都市下京区大宮通木津屋橋下ル

営業時間：10：00～19：00

休日：無休(年末年始および夏期)

1F/一般車
コーナー 075-341-7702

2F/スポーツ車
コーナー 075-341-7703

【久世店(オーダーフレーム工場)】

〒601-8205

京都市南区久世殿城町 162

営業時間：10：30～18：00

休日：毎週水曜日・木曜日

TEL：075-921-8679

I FEEL THE WIND



The Japanese Alpine Club

日本山岳会

会員証

公益社団法人 日本山岳会
〒102-0081 東京都千代田区四番町 5-4
TEL: 03-3261-4433 <https://www.jac1.or.jp/>



●旧会員証でも構いません●

日本山岳会 会員証のご提示で
店頭価格から御値引いたします！

※特価品・SALE品は対象外です。
詳しくはスタッフまで！

取扱い
ブランド

gan well

ANCHOR

inelli

vittoria

HED. DOLAN

PINARELLO

LOOK

ANCHOR

SCOTT

FOCUS

Wilier

corratec

など